

【那珂市】 校務DX計画

【現状】

那珂市では、1人1台端末やICTツールを積極的に活用し、職員会議等の資料をクラウド上で共有することでペーパーレス化を図るとともに、職員会議等のハイブリッド化を実施している。

GIGAスクール構想の導入から数年が経過し、校務の効率化については一定の成果が見られるものの、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、一部業務のICT化に留まっており、一歩踏み込んだICT利活用が進んでいないという課題が浮き彫りとなった。

課題としてはクラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃が一部に留まっている点が挙げられ、校務の効率化・完全なペーパーレス化に向けて課題が残る状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえ、これらの課題について早急な解決に向けた検討が必要と認識している。

【当市における課題】

(1) クラウドツールの活用不足

那珂市では、デジタルドリルを活用した学習等が少しずつ進んでいるものの、日常的な宿題や長期休業期間中の課題は依然として紙のドリルやプリントを配布しており、その都度回収や採点を行っている。そのため、教職員の業務負担軽減やペーパーレス化が遅れている。

職員会議等ではハイブリッド化を進めるなど一定の改革は見られるものの、会議事項を事前にクラウド上で共有して意見を求めるなど、クラウドならではの利点を十分に活用できていない。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、業者・教育委員会等とのFAXでのやり取りが慣習として残っており、廃止が進んでいない状況である。

また教職員が学校へ提出する事務手続きもクラウド化されておらず、書類での提出となっている。

(3) 校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業

那珂市では、児童生徒の欠席・遅刻等の連絡を保護者がアプリや電話で行っている。しかし、現状では、これらの情報を紙の様式に記入し、さらに担任へ個別に報告する作業が発生しており、業務負担となっている。

【取組方針】

現状と課題について那珂市では、下記のとおり校務DXの推進を図っていく。

（１）クラウドツールの活用

デジタルドリルを活用し、宿題やドリルのペーパーレス化や採点の自動化を図り、教職員の日常業務の負担軽減を図る。

クラウドツールのさらなる活用を推進し、職員会議等の効率化を図り、他の業務に時間を充てられるようにする。

（２）FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、業者・教育委員会等とはメールを使ったやり取りなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、廃止できるもの、代替できるものを区分し、押印の慣習をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

（３）校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃

校務支援アプリ等を活用し、保護者からの連絡をアプリで受け付け、管理者や担任もアプリやクラウド上から確認できる仕組みを導入することで、教職員の業務負担軽減ができないか検討していく。